

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児の健康増進への看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	10 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	前期	教室名	新館2、3階
担 当 教 員	寺崎 経子	実務経験と その関連資格	総合病院にて臨床経験 計15年(主に小児病棟勤務) 地域の学校看護師などの経験			
<b>《授業科目における学習内容》</b> 科目目標: ①成長・発達の知識と成長発達に合わせた生活支援の方法を理解する。 ②発達段階別に、各期の子どもの成長・発達、家族、各期におけるの日常生活の支援方法を理解する。 ③疾患の治療処置別の看護について、理解する。 ④心理的準備であるプリパレーションについては演習を通して模擬実践ができる。						
<b>《成績評価の方法と基準》</b> <b>【評価方法】</b> 終講試験(25点)、演習/課題レポート(10点) <b>【評価基準】</b> 優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満 (同科目の評価点と合算して100点満点とする)						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシンググラフィカ 小児看護学②看護技術、中野綾美編、メディカ出版 <b>【参考書】</b> ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護、中野綾美編、メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護、中村友彦編、メディカ出版						
<b>《授業外における学習方法》</b> 1) 事前課題にとりくみ、子どもの特徴を理解したうえで講義に臨む 2) 教科書の該当ページを予習復習し、わからない言葉については必ず調べ臨む。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 1) 小児看護学概論の小児各期の発達課題と身体の形態・機能、体格、情緒、社会性といった心身の発育をふまえて臨む。 2) 演習においても子どもへのコミュニケーション技術を用いながら実践する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1. 子どもの成長発達に合わせた呼吸・循環を整える援助の方法を理解できる		教科書p.132～146 配布資料	動画を視聴し、成人での援助方法との違いをふまえ、「酸素療法」「吸入」「吸引」の援助計画作成次回の授業前に提出	
	各コマにおける授業予定	呼吸・循環を整える技術 ・酸素療法、吸引(AR)、吸入、人工呼吸器の管理、体温調整				
第2回	授業を通じての到達目標	1. 子どもの成長発達に合わせた安全な与薬の技術について理解できる		教科書p.150～162 配布資料	成人での援助方法との違いをふまえ、「持続静脈内点滴療法」「内服薬」の援助計画作成次回の授業前に提出	
	各コマにおける授業予定	薬物療法を受ける子どもへの技術 ・経口薬、坐薬、注射、輸液 ・子どもへの支援方法(説明と同意、事故防止など)				
第3回	授業を通じての到達目標	1. 治療・検査を受ける子どもの看護援助を実施できる		教科書 配布資料 GW:人形聴診器など	事例についての援助計画をもとに、実際の援助をモデル人形用い実施し演習からの学びを含め援助計画を追加修正し再度提出。	
	各コマにおける授業予定	【演習】 酸素療法、吸引・吸入、薬物療法(経口薬、坐薬、注射、輸液)				
第4回	授業を通じての到達目標	1. 子どもの成長発達に合わせた救命救急の知識と技術を理解できる 2. 子どもに起こりやすい事故や症状に応じた応急処置を理解できる		教科書p.170～201 配布資料	動画を視聴し、成人での援助方法との違いをふまえ、子どもの特徴と援助方法についてレポート作成し提出する。	
	各コマにおける授業予定	子どもに起こりやすい事故について 救命救命の技術① ・子どもの救命救急処置の特徴 ・救命蘇生法の実際(AR) ・その他の応急処置(気道内異物の除去、熱傷、溺水、熱中症、骨折)				
第5回	授業を通じての到達目標	1. 子どもの一次救命処置が実施でき、アルゴリズムについて理解できる 2. 二次救命処置の必要な技術や家族の対応など理解できる		教科書 配布資料 GW:人形、AEDなど	第4回目の講義内容、レポートをふまえ、状況設定に合わせ子どもの救命救命について考える。	
	各コマにおける授業予定	【演習】 救命救命の技術②				